



武内和久北九州市長と記念写真
(提供：北九州市障害福祉団体連絡協議会)

4年ぶりに開催！障害福祉に携わる 方々との親睦や交流を深めあう

北九州市障害福祉団体連絡協議会交流会開催

令和六年一月三十日（火）十八時からJR九州ステーションホテル小倉の五階「飛翔の間」で、北九州市障害者団体連絡協議会（以下障団連）の交流部会主催で「障団連交流会」が行われました。「さわやか」から山田、高原、貞谷が参加しました。

今回は武内和久北九州市長をはじめ、田仲常郎北九州市議会議長と市議会議員の

方、北九州市保健福祉局の武藤朋美局長および障害福祉に係る行政の方々二十一名を含む障団連加盟団体二十六団体、総勢六十九名の参加がありました。

交流会の目的は、北九州市で様々な障害福祉のためにご尽力する皆様との親睦や交流を深めるための企画で、四年ぶりに行われました。交流会の前に武内北九州市長と一緒に参加者の皆様で記念写真の撮影を行いました。その後、交流会に入りました。

これから障害福祉に 皆様の力添えを

初めに、障団連の林芳江会長より「本日は、ご多忙の中、武内北九州市長様、田仲議長様をはじめ、多くの方々にお集まりいただき、華やかな交流会になりました。ありがとうございます。」

障害当事者やその家族、ボランティア団体の皆さんで力を併せて、これからも障害福祉について取り組んでいきたいと思います。改めて、皆様の力添えをお願いいたします」と主催者挨拶がありました。続いて、武内北九州市長

インフルエンザ&新型コロナウイルスに気を付けよう！

改めて基本的な感染対策を

現在、インフルエンザおよび新型コロナウイルスにかかっている方たちが増えています。

福岡県内でもインフルエンザが二週連続で増加、新型コロナウイルスは十週連続増加しています。



インフルエンザは先週に引き続き警報レベルとなっています。

手洗いの徹底や適切なマスクの着用など、基本的な感染対策をとりましょう！

と田仲北九州市議会議長より来賓挨拶がありました。



武内和久北九州市長

本市の福祉を日本そして 世界の福祉のリードを

武内北九州市長から「林会長をはじめ、皆様には平素から本市の市政に手をかけていただき心から御礼申し上げます。」

障団連は、平成十年の発足以来、二十六年の長きにわたり、障害福祉を担う各団体のご理解と連携を深めてこられ、本市の障害のある方が地域の中で、安心して生活が出来るよう、共生社会の実現に向け、多くの啓発活動など熱意をもって

取り組んでいただいたこと、心から御礼申し上げます。皆様の想いの中に真実があります。

ぜひ、皆様のお声を聞かせていただきながら、本市の福祉を日本の福祉、世界の福祉をリードしていくような志をもって行ってまいります。

一緒に頑張りましょう。最後に、障団連の皆様の益々のご発展と出席されています皆様のご繁栄をお祈りいたします」と挨拶がありました。

田仲北九州市議会議長は「障団連の皆様におかれましては今日まで、長年にわたり、障害のある方たちが地域で素晴らしく安心して暮らせる共生社会の実現を目指して、障害福祉の増進に貢献してこられています。皆様の努力と活動に敬意を表します」と挨拶されました。

久しぶりに逢う仲間同士 交流を深める

次に、（社福）北九州市社会福祉協議会の垣迫裕俊会長が乾杯の音頭とり、祝宴に入りました。

美味しい料理に舌づつみをうちながら久しぶりに逢う参加者同士、交流を深めました。

ました。

しばらく歓談後、障団連の森聖子事務局長がプロジェクターで障団連の最近の活動状況を動画で上映しながら説明しました。

その後、高次脳機能障がいを考える会「虹」の石井朱實代表が高次脳機能障害について話されました。

余興として、じゃんけんゲームをしました。

各テーブルで代表者を一名称めて、高寄和子交流部会長とじゃんけんをし、上位三人の代表

のテーブルにスピーチをしてもらうゲームです。

スピーチでは、門司港のバナナのたたき売りの口上や、団体の紹介など話し、大いに盛り上がりしました。



また、JR九州ステーションホテル小倉のご厚意で、食事券をいただいたので、抽選で、障がい者福祉推進北九州連合会議の白土友恵事務局次長に当たりました。閉会の挨拶として、障団連の山田浩美副会長が「四年ぶりに開催することが出来たことにまず感謝申し上げます。（裏面へつづく）」



Dr. 江頭眞紀子氏による
とっておきのお話し

好評につき【とっておきのお話し】を公益財団法人健和会 健和会会京町病院の医師であり、「かわやか」の名譽顧問でもある江頭眞紀子先生に執筆していただきましたのでご紹介します。

コーヒーもう一杯

公益財団法人健和会 健和会会京町病院
医師 江頭 眞紀子

ボブ・ディランがノーベル文学賞を受賞した時、なるほどなあと思いました。「風に吹かれて」……たしかにあの歌詞は文学と言っている。その歌の英語の歌詞を、辞書を引き書き写した時の私は中学生だったでしょう。心を打たれました。

いくつの海を渡れば
白い鳩は砂の上で休めるのか
いくたび大砲の弾が飛べば
永遠にそれがやむのか
いくたび人は顔をそむけて
見えないふりができるのか
いくつの耳を人が持てば
人々の嘆きの声が
聞こえるのか

（表面よりつづき）
短い時間の中ではございましたが、それぞれ多くの団体の方や、いろいろな障害を持った方との交流が出来たことと思います。

今後は障団連と個々の団体がどこかで必ずお世話になると思います。その時にはどうかよろしく願い致します。



本日は、お忙しい中ご出席いただきました行政の方や関係団体、また関係者の方々がとうございしました。障団連はご存じの通り障害を持った当事者とその家族や支援者、それからボランティア団体等の集まりです。

また来年このような素晴らしい交流会が出来ますように、皆様と元氣でお会い出来ることを心から願っております」と挨拶しました。最後に、（公社）北九州市障害福祉ボランティア協会の岡田和敏理事長と参加者全員で手一本をして交流会は二十時に終了しました。

友よ



その答えは風に吹かれている

その後彼がどれだけの歌を創り出したのか知りませんが心に残っています、「コーヒーもう一杯」。

女性の声にからんで、立つ前にコーヒーをもう一杯、と歌うのです。

前奏間奏のバイオリンの音が美しいので、ディランの悪声が気にならない！

彼がノーベル賞を獲得したあと、ミュージックショップの棚には彼のCDがいっぱい並びました。一枚ぐらい買おうかと思いましたが、知らない歌だらけでわからない。

「コーヒーもう一杯」の入っているCDをようやく見つけて買いました。

ディランは、レコード制作の時にスタッフを悩ませるという気まぐれと言いい、ノーベル賞受賞の時のひねくれたコメントと言いい、傲慢で気難しい人間なのだろうと思っていました。先日YouTubeで、「ワイ

アーザワールド」のメイキング映像なるものに出くわしました。

「ワイアーザワールド」は、エチオピアの飢饉に際して、一九八五年に米国の一流歌手たちが集まってレコードを制作し、その売上げを寄付したチャリティ事業です。

マイケル・ジャクソンとライオネル・リッチーが作曲した歌を、趣旨に賛同した歌手や演奏家が集合して、ある一晚で録音して造り上げたものです。

四十五人の歌手がコーラスし、それをバックに、ステイビー・ワンダーやダイアナ・ロスなどのトップシンガーが、一節ずつソロを取って歌い継いで行きます。

その収録風景で、あれこれ議論しながらリハーサルし、収録をくりかえし、夜も明けそうになるのです。テーブルに突っ伏したり、柔軟体操をしたり、「フィッシュバーガー食べたい！」と叫んだり。

ボブ・ディランも参加していません。ソロを取る予定ではなかったのですが、プロデューサーのクインシー・ジョーンズが、「ディ

ランの歌がほしい」と言い出したのです。

ディランは困惑していました。

「どう歌っていいかわからない」と言うのです。

「君の歌い方でいいんだ」と言われてもためらっています。彼はシンガーソングライターですから、人の作った歌を歌えといきなり言われても困るのでしょう。

するとステイビー・ワンダーが、キーボードを叩きながら、「こういう風に歌ったらいよいよ」と、みごとに「ディランの歌い方」を真似て歌ってみせたのです。

その後しつこく練習を繰り返して、本番でディランが歌ったのはステイビーの歌いかたとそっくりでした。

ディランがステイビーを真似たわけではなく、ステイビーのディラン節が巧みだったのでしょう。

なあんだと思いました。要するにディランってシャイなんだ。

急に彼が可愛く思えました。その後たった一枚のCDを繰り返し聴きました。コーヒーの歌以外にもみんないい曲でした。